

事務事業名		リニア推進対策事業			会計		一般会計				
					事業種別		政策		開始 S50 終了		
課等名		リニア推進課			係等名		事業調整係・リニア推進係				
基本計画上の位置づけ		政策 8		山・里・街の魅力を高め、交流と連携によるグローバルなまちづくり							
		施策 81		交流による高付加価値化・国際化の推進							
目的	対象(誰・何を)	①飯田下伊那郡市民(以下「郡市民」という) ②リニア中央新幹線計画関係機関 ③リニア中央新幹線計画路線			指標名及び単位		24年度数値				
	意図(どういう状態にするか)	リニア中央新幹線の早期実現に向け、郡市民の関心を高める			対象指標	郡市民の数(人) 県毎月人口異動調査結果10月1日の人口		166860			
	向上させたい上位施策の成果指標	都市間交流に参加している市民の割合(三遠南信・中京圏除く)				リニア中央新幹線計画路線延長(km) (計画延長東京～大阪:約500km)		500			
目標	種別	指標名及び単位			24年度計画	24年度実績	25年度計画	28年度見込み	備考(指標変更など)		
	成果指標	リニア中央新幹線に関する講演会等に参加した郡市民の割合(%)			1	0.81	1	1			
	定性目標										
事業概要	<p>①リニア中央新幹線は、新時代の高速交通機関であり、その実現は飯田市と大都市圏との時間的距離を大幅に短縮する。リニアのメリットを活かして当市と大都市圏との地域間交流を促進し、魅力と活力ある持続可能な地域づくりを目指す。リニア中央新幹線開業を見据えた地域づくりの指針であるリニア将来ビジョンに対する郡市民の関心を高め、意識の共有化を図るとともに、このビジョンを具現化するリニア推進ロードマップを検討し、進行管理を行う。</p> <p>②平成25年度中に、JR東海からルート及び駅位置の詳細が公表される予定であることから、事前の調査計画を実施するとともに、必要となる計画策定に向け体制等を整える必要がある。</p> <p>③リニアの効果を広範囲に波及させるために必要となる社会基盤の整備を計画的に実施できるよう関係機関と調整する。</p> <p>④リニア中央新幹線建設促進飯伊地区期成同盟会は、当地域の中核市である飯田市が事務局を担当していく。</p>										
	事業内容					名称			活動指標		
	24年度事業内容	1 リニア中央新幹線推進体制整備 ①リニア推進本部会議、②飯伊地区期成同盟会				1 ①開催回数			1 ①15回		
		2 リニア各種シンポジウム・大会等の開催及び参加				②負担金、総会講演会参加者数			②333千円、250人		
3 リニア推進ロードマップの検討				2 参加回数、人数			2 2回、1,100人				
4 駅やその周辺および交通網の整備に関する各種調査・計画立案 交通量等調査				3 式			3 1式				
5 リニア啓発活動				4 式			4 1式				
①Webによる情報発信、②その他啓発活動の企画・実施				5 ①アクセス数			5 ①778回/月				
6 国県、JR東海等関係機関からの情報収集、地元との連絡調整				②開催回数			②6回				
7 まちづくり関連各種調査				6 活動回数			6 19回				
				7 式			7 1式				
事業コスト		23年度決算額	24年度予算額	24年度決算額	25年度予算額	特定財源内訳、補足					
事業費計(千円)①		308,696	356,722	345,342	351,364	[23特定財源]ふるさと寄附金、基金利子					
国庫支出金			15,880	15,880	3,300	[24特定財源]ふるさと寄附金、基金利子、調査事業に対する補助金(国)					
県支出金						[25特定財源]ふるさと寄附金、調査事業に対する補助金(国)					
起債											
その他		2,511	1,716	1,716	5,000						
一般財源		306,185	339,126	327,746	343,064						
人件費計(千円)②		0		21,456							
正規職員所要時間				6,000							
臨時職員所要時間											
総事業費①+②		308,696	356,722	366,798	351,364						
事業内容・目標達成状況の振り返り	リニア将来ビジョンを基本構想・基本計画に反映させ、戦略的な地域づくりを進めている。この取組が遅滞なく進められるよう「リニア推進ロードマップ」を策定した。加えて、多様な主体による地域づくり推進のため、地域づくり講演会を実施した。また、リニア駅への交通アクセス等の社会基盤整備を検討するため、基礎調査事業を実施するとともに、JR東海が実施する環境影響評価に伴う調査へ協力した。										
改革改善の考え方	①問題点	リニア時代を見据えて、地域の魅力を前面に出したリニア将来ビジョンを具現化する地域づくりを進めていく必要がある。									
	②改革提案	上記地域づくりを進めていくために策定した、リニア推進ロードマップの骨格に肉付けをして、事業の進行管理を行う。									